戦略的創造研究推進事業
（社会技術研究開発）
令和元年度研究開発実施報告書

ＳＤＧｓの達成に向けた共創的研究開発プログラム

シナリオ創出フェーズ

「性暴力撲滅に向けた早期介入とPTSD予防の
ための人材育成と社会システムづくり」

研究代表者　　長江美代子
日本福祉大学　教授

協働実施者　　片岡笑美子
（一社）　日本フォレンジックヒューマンケア
センター　会長

目次

１．研究開発プロジェクト名 2

２．研究開発実施の具体的内容 2

２ - １．目標 2
２ - ２．実施内容・結果 4
２ - ３．会議等の活動 18

３．研究開発成果の活用・展開に向けた状況 19

４．研究開発実施体制 19

５．研究開発実施者 20

６．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など 21

６－１．シンポジウム等 21
６－２．社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など 21
６－３．論文発表 22
６－４．口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）（0件） 22
６－５．新聞報道・投稿、受賞等 22
６－６．知財出願 22

１．研究開発プロジェクト名

性暴力撲滅に向けた早期介入とPTSD予防のための人材育成と社会システムづくり

２．研究開発実施の具体的内容

２－１．目標

（１）目指すべき姿

本プロジェクトが取り組む社会課題は、性暴力被害、PTSD発症、生活・社会不適応、再被害という悪循環である。性暴力被害の多くは見逃されており、実際の被害発生数は不明である。見逃されている理由としてあげられるのは、①被害者は誰にも言わない、相談する場所も知らない、相談する場所が不足、②研修を受けて適切な知識を持っているスタッフが不足、③情報システムの不足で迅速な関係組織間の情報共有・機動的連携が不調、④エビデンスに基づく政策決定(EBPM)に活用するデータがないために制度普及が不足、⑤直接収益につながらないと言う経営者の視線、などである。性暴力の被害者は、社会に根強く存在する偏見のため二次被害を受けやすく、被害者のおよそ半数が心的外傷後ストレス障害（以下PTSD）を発症する。PTSDに特徴的なトラウマ記憶は、物事や行動の解釈や問題解決への認知反応を歪めるため、社会生活を妨げる。適切な支援が得られないと問題は長期化し、人間関係の悪化、失職、生活困難、慢性的健康障害、再被害、貧困の悪循環に陥る。PTSDの病理は次世代に及び、その治療は喫緊の課題であるが、PTSD治療を提供する医療機関もスタッフも僅少という現状がある。

目指すべき姿は次のような状態である。すべての性暴力被害者は救援され、予想されるPTSD発症に対して予防・治療・回復に沿った適正な医療が提供され、健康で社会生活が継続できる。性暴力被害者のためのワンストップ支援センター(以下OSC）が、国連の推奨に基づき人口20万人に一箇所設置され、研修を受けたスタッフが配置されている。社会には性暴力は犯罪であるという認識が浸透しており、すべての性暴力被害者はためらうことなく助けを求め、二次被害を受けることなく、トラウマ治療を含め包括的な支援を一箇所で受けることができる。性暴力を許さない社会システムにより、将来的には性暴力は撲滅する。

課題解決のためのアプローチは、①病院拠点型OSC増設と拡大、②トラウマの知識を持って対応できる人材育成、③科学的エビデンスのあるトラウマ対応方法の普及、④多職種多機関連携チーム（ＭＤＴ）を支援する情報共有・意思決定支援システムの構築、⑤「なごみ」をはじめとする病院拠点型OSC活動のデータの標準化・蓄積・分析基盤の構築、⑥性暴力予防から撲滅につながる社会システムづくりのための啓発・教育・広報活動である。全ての被害者をワンストップ支援センターで救援し、ＭＤＴの介入により、速やかにPTSDの予防・治療・回復へとつなぐことで、悪循環を断ち切り、健康で尊厳が守られる社会を目指す。

研究グループは、なごみでのPTSDの予防・治療・回復に関わるケアやセラピーを担当し、なごみグループと協働して、支援員、性暴力被害者支援看護師（SANE）、PTSD暴露療法（PEやTF-CBTなど）セラピストの育成のための研修を企画実施する。なごみグループによる日々の性暴力救援活動に関わり、データ連携を確実に実現できるように、計画を練り、対話を通して評価修正していく。なごみグループをサポートし、データサイエンス支援グループと協働してデータが有効に蓄積され、PTSD治療拡充に対してその効果を科学的に実証していく。

なごみグループは、病院拠点型OSCの地域への拡大に取り組み、データサイエンス支援グループにより作成開発されたデータベースや応用プログラムを実践に乗せ、SANEのスキルアップとＭＤＴの活性化に取り組み、その実践モデルを示す。研究チームとの協働によりデータ連携を確実に実現できるように、計画を練り、対話を通して評価修正していく。

これらの実践とエビデンスに基づいた啓発・教育・広報活動を積極的に展開し、性暴力に関する社会の理解を促し、性暴力を未然に防ぐことができる社会環境を提供する。

データサイエンス支援グループは、なごみを中心に構築された地域内のステークホルダーとのネットワークと協働し、データベースや応用プログラムを作成開発する。研究グループとともに病院拠点型OSCの活動データの標準化・蓄積・分析基盤を構築する。グループ間の対話は、定期的な運営会議と事例検討会で効果的にできており、本プロジェクトが課題とする社会問題についても、共通の認識を持ち取り組んできた。これを土台に、研究者グループとデータサイエンス支援グループがこのシステムを発展させていくことになる。全ての被害者救援のためには、データ連携の実現は必須である。

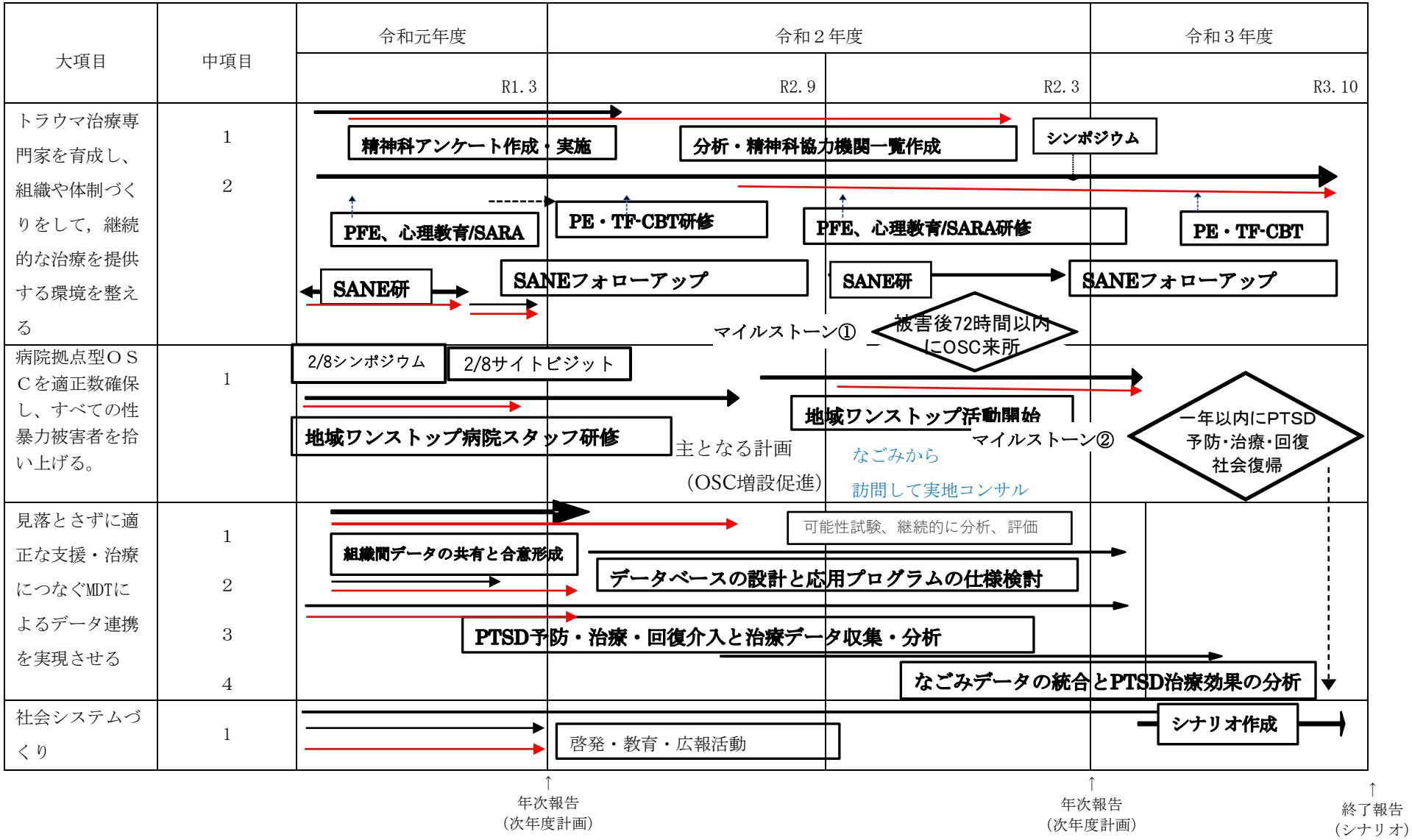
（２）研究開発プロジェクト全体の目標

シナリオ創出フェーズでは、導入として、愛知県内すべての性暴力被害者救援と、トラウマおよびPTSD専門医療の拡充を目指す。同時に、性暴力に関する正しい知識と技術を持った人材育成と、性暴力を未然に防ぐことができる社会環境づくりに向けた啓発・広報活動を展開する。情報共有・意思決定支援システムと病院拠点型OSC活動のデータの標準化・蓄積・分析基盤の構築により、長期的には日本国内への拡充を図り、速やかな性犯罪防止対策の具体化とエビデンスベースの実践が根付いた社会システムの構築により性暴力撲滅を目指す。

２－２．実施内容・結果

（１）スケジュール

研究開発期間中（24ヶ月）のスケジュール



（２）各実施内容

A.　トラウマ治療専門家を育成し、組織や体制づくりをして，継続的な治療を提供する環境を整える。

1.　性暴力被害者のトラウマケアおよび治療について全国の精神科関連機関にアンケートを実施し、協力機関一覧を作成する。

［今年度の到達点①］：アンケートを作成し、日本福祉大学の研究倫理審査委員会の承認を得て、全国の性暴力被害者 OSC に協力依頼をする。

実施内容

- 被害者を適切にトラウマ・PTSD 治療につなぐため、OSC と精神医療機関が連携協力できる内容を把握するための質問紙を作成し、連携を推進している精神科医にコンサルテーションを受けた。
- チームの精神科医師、精神科看護師、臨床心理士と検討し、内容妥当性（face validity）を確保した。
- アンケートを研究代表者が所属機関の倫理審査委員会承認を得た。

＜変更点とその背景・理由＞

- アンケート実施方法を以下のように変更した。
  全国調査ではあるが、段階的に進める。最終成果物は、全国ではなく各都道府県内の OSC と任意の精神診療機関の共有とし、一般公開はしない。
  上記変更に伴って、経過は地域ごとに段階的に進むため一定期間を要することから、協力機関一覧が全各都道府県において完成する時期を延長した。
- COVID-19 の影響により、全体のプロセスがスローダウンし、研究倫理審査申請書の提出が遅れた。加えて、全国の性暴力被害者 OSC に協力依頼を呼びかける予定の OSC 全国連絡会が中止され、その機会を得られなかった。

2.　トラウマケアおよび治療専門家を育成する。

［今年度の到達点①］：被害直後から中長期のトラウマ症状のモニターと PTSD 専門ケアおよび治療に関する研修を、健康医療福祉施設に関わるスタッフに対して実施する。

実施内容

- PCIT（親子交流療法）５日間イニシャルワークショップ実施
- CARE（を地域内児童保護施設スタッフその他近隣の近隣児童関連医療福祉施設スタッフに実施
- 臨床心理士のなごみで性暴力被害者対応の研修を開始
- PTSD 発症者に対して PTSD 暴露療法（PE）を実施。

＜変更点とその背景・理由＞

COVID-19 の影響により、以下の対面集団研修は開催できなかった。

- 「なごみ」SANE フォローアップ研修「トラウマ症状に対する心理教育、心理教育アプリ SARA の活用」を延期
- PTSD 暴露療法（TF-CBT）研修、「なごみ」アドボケーター研修（PFA による被害直後の危機対応）次年度に延期

B.　ワンストップセンターを適正数確保し、すべての性暴力被害者を拾い上げる。

［今年度の到達点①］：令和２年３月末までに地域内救急救命病院少なくとも1～2箇所にSANEを配置し性暴力被害者急性期ワンストップ支援センター（以下地域OSC）を開設する。

実施項目①-1：地域内救急救命病院に配置するSANEの育成

実施内容

愛知県との協働により第６回目SANE養成研修を実施した。
募集期間　2019年7月10日～9月10日
開講期間　2019年10月5日～2020年1月12日
開講時間　64時間
場所：日本福祉大学名古屋キャンパス、名古屋第二赤十字病院研修室および産婦人科外来
受講者数：33名（愛知県内の拠点病院候補救命救急23センターのうち18センターから26名の看護師が受講）

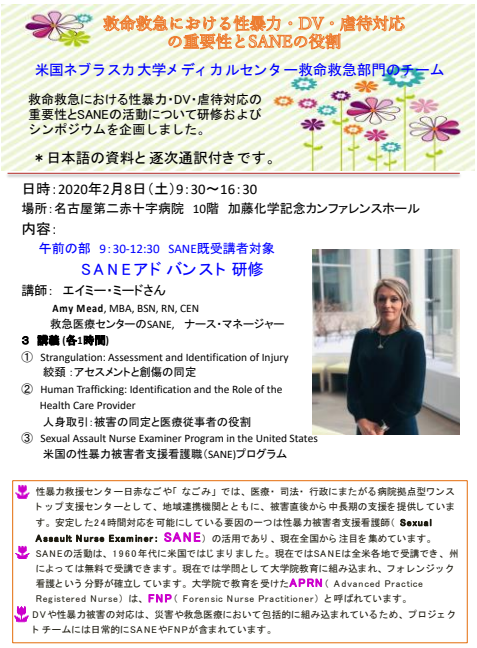
主催：日本福祉大学
共催：性暴力救援センター日赤なごや「なごみ」、NFHCC
https://www.netnfu.ne.jp/nfu_certificate/program/2019/sane/

実施項目①-2：地域内救急救命病院のOSC立ち上げのサポート

実施内容：

米国ネブラスカ大学メディカスセンター救命救急部門のチームを招致し、救命救急における性暴力・DV・虐待対応の重要性とSANEの活動について特別講義とシンポジウムを開催した。

対象：病院とSANE受講生その他（参加者：午前SANE36名、午後一般を含む30名）
日時・場所・内容：令和２年２月８日　チラシ参照



実施項目①-3：病院拠点型OSC社会システム整備計画

実施内容：

協力病院及び病院拠点型OSC設置に向けて、自病院の現状分析と課題を明確に

し、中長期目標に沿って行動計画を立案した。18施設のアクションプランを情報共有する目的で第3回連絡会議を開催する予定が、COVID-19 により報告する機会ができなかったため、紙上発表として各自に送り情報共有を図った。

＜変更点とその背景・理由＞

COVID-19の影響により、以下の対応とした。

- 地域 OSC 設置病院スタッフの「なごみ」見学と、院内プロジェクトの立ち上げ、院内管理職および現場のスタッフの研修サポート→**延期**
- SANE 受講後の導入病院所属の看護師の SANE 実習（「なごみ」で 3 ヶ月間）→**延期**
- SANE 受講生からの所属機関への導入を想定したアクションプランは**紙面発表**（印刷して対象受講生に配布）に変更
- SANE プログラムについての愛知県連絡会議および日本福祉大学の SANE 研修評価会議は、合同の WEB で実施
- COVID-19 による全体の遅れおよび、SANE 受講生のアクションプランを考察した結果、令和２年３月末までに 3 カ所の OSC 設置は困難であるため、目標値を再検討

C. 見落とさずに適正な支援・治療につなぐ MDT によるデータ連携を実現させる：項目 A、B の PE 実施環境のデータ収集環境構築，データ分析

1. 組織間データ項目の標準化を行いデータベースの構造を設計する。

[今年度の到達点①]： 業務内容やデータの流れを分析し、抽出概念をカテゴリー化しデータ項目を作成する。

実施内容：

- 既存ケースを用いたロールプレイングなどにより，関係機関間の合意形成プロセスを開始し、各機関が必要としているデータ項目及びデータの流れについて分析を開始した。
- 「なごみ」の入力ケースを対象に、データ項目の整理・分析を開始した。

＜変更点とその背景・理由＞

- 事業開始時点で各種組織間の連携方法について合意が成されていたが、まだ不十分のため、連携方法の合意形成プロセスから実施する分析から実施し、合意形成を待って標準化やデータベース構造設計を実施する。ただし、COVID-19 の影響で順延中である。
- 合意形成プロセスは、COVID-19 の影響により 3 月初頭から中断しているため、実施可能な「なごみ」内のデータのみを使ったデータ項目・分析を進めた。

2. データベースの作成と応用プログラムの開発

[今年度の到達点①]： データベース及びネットワーク構築により、関係者がデータの入力、閲覧、編集、削除ができるようになる。関係者が業務フローに併せて最低限知っておくべき役割や知見を提示する。

実施内容

- 「なごみ」の入力ケースを対象に、入力省力化ならびにデータ蓄積方法の改良を

開始した。

[今年度の到達点②]: 産業技術総合研究所が開発した虐待対応意思決定支援プラットフォーム”AiCAN”について、本申請内容に合わせた要件の詳細を詰めた上で、実験的に試用できるか検討する。

実施内容

- 産業技術総合研究所が開発した虐待対応意思決定支援プラットフォーム”AiCAN”について、本申請内容に合わせた要件の詳細を詰めた上で、実験的に試用できるかの検討を開始した。

＜変更点とその背景・理由＞

- 各種組織間の連携方法についての合意形成プロセスの先行が必要となったため、順延している。
- AiCAN については予定通り要件詳細の検討に入っている。AiCAN の利用は時期尚早の感が強く、シナリオ創出フェーズ中では、フェーズ終盤に実験的試用が可能かどうかの方向で検討を開始した。シナリオ創出フェーズ終了時までに利用方法の検討を終了させ、ソリューションフェーズからの活用開始を想定する計画へ変更を予定している。
- 「なごみ」の入力ケースを対象に、入力省力化ならびにデータ蓄積方法の改良を開始した。

3. **「なごみ」利用者にトラウマケアおよび PTSD 治療を実施し、効果を評価する。**

[今年度の到達点①]: PE 療法、TF-CBT を実施し治療データベース化し，症状尺度で継続してモニターし効果を測定評価する。

実施内容

- PE 治療の記録を集積するための Web ベース入力システムの設計･構築を開始した。
- 2019 年 11 月から 2020 年 3 月末までの期間中 29 名に対しトラウマケアとしての心理教育を実施し、延べ 67 回面接を実施した。被害者一人につき平均 2.3 回の面接である。PTSD 症状が継続した 3 名の利用者に対して PE を実施してデータを得た。

＜変更点とその背景・理由＞

- 当初想定通りの Web システム化を進めている。R2 年度よりデータ収集を開始し、継続してモニターする予定である。

4. **地域ワンストップ設置病院で受け入れた被害者のデータ収集を「なごみ」のデータに統合し、急性期３ヶ月の対応と PTSD 発症について分析する。**（B 項目より）

[今年度の到達点①]: なし

＜参考: 変更点とその背景・理由＞

- 上記参考事項の通り、当初より R1 年度の実施は計画しておらず、予定通りである。ただし、連携方法の合意形成ならびに COVID-19 の影響により、逐次順延されるものと目される。

D. 啓発・教育・広報活動による性暴力を未然に防ぐことができる社会システムづくり

1. 啓発・教育・広報活動により、性暴力が医療的・社会的・政治的・経済的問題であることを伝える。

［今年度の到達点①］：愛知県とその周辺地域にアウトリーチし、幅広い分野で啓発・教育・広報活動を展開する。

実施内容

＜啓発＞

- 名古屋 SORA ゾンタクラブ「性暴力の現状と課題－なごみの現状から－」(令和元年 11 月 20 日)
- 性暴力被害防止セミナー「身近に起きる性暴力－大切なからだとこころを守ろう」豊田市保見交流館　多目的ホール(令和元年 11 月 23 日)
- 名古屋第二赤十字病院イベント　ふれあい祭&看護フェスティバル「災害時における性暴力」(令和元年 12 月 14 日)
- 名古屋大学 HeForShe 特別セミナー「日本における性暴力被害者救援の現状とトラウマケア」について講演（令和元年 12 月３日）
- 京都産業大学　社会安全・警察額研究所：シンポジウム　性暴力被害者のために何が必要か、何ができるか(令和２年２月 17 日)

＜教育＞

- 性暴力被害者支援看護職（SANE）養成プログラム」が、日本福祉大学履修証明プログラムとして開講（令和元年 10 月より）
  https://www.netnfu.ne.jp/nfu_certificate/program/2019/sane/
- 令和元年12月、日本福祉大学履修証明プログラム「性暴力被害者支援看護職(SANE)養成プログラム」が「職業実践力育成プログラム」（BP）として採択
  https://www.n-fukushi.ac.jp/news/19/191219/19121901.html
- サポートセンターあいち支援員養成講座ステップアップ講座「性暴力被害者支援」(令和元年 11 月６日)
- 愛知県司法書士会「性暴力の被害の実態と急性期対応」(令和元年 11 月 14 日)

＜広報＞

- 施設見学受け入れ「神奈川つなっぐ」(令和元年 12 月 24 日)
- NHK 名古屋まるっと／おはよう東海「子どもを被害から守るには」にて活動内容を放映（令和２年１月 15 日／１月 24 日）
- 中日新聞取材(令和２年１月 14 日)
- なごみのリーフレット見直しと、NFHCC のホームページアップデート、リーフレットの作成→継続

2. 性暴力撲滅に向けての社会システムづくり活動

［今年度の到達点①］：刑法の改正、政策への提言、効果的な性教育にとりくむ。

- 性犯罪被害者の心理状態の鑑定人として召喚され証人尋問を受けた。
- 法務局のヒアリングをうけた。

＜変更点とその背景・理由＞

COVID-19の影響により、以下の活動は中止または延期となった。

- 日本フォレンジック看護学会と連携し、第１回 SANE 学会認定試験を実施→COVID-19 のため WEB 試験にて 7/25 実施予定
- 令和２年３月27、28、29日

「ポリヴェーガル理論とオキシトシン研究の最新の知見の臨床応用―臨床家のためのスキルアップワークショップ」「性被害・凍り付き反応・ポリヴェーガル理論」
https://theresahanaoka.jimdo.com/ポージェス博士-スー-カーター博士来日ws/
→次年度のWEBシンポジウムと講座に変更となった

- あいち保育共同連合会　保険部会　（令和２年２月 17 日）(延期)

（３）成果

A. トラウマ治療専門家を育成し、組織や体制づくりをして，継続的な治療を提供する環境を整える。

1. 性暴力被害者のトラウマケアおよび治療について全国の精神科関連機関にアンケートを実施し、協力機関一覧を作成する。

［**今年度の到達点①**］：アンケートを作成し、研究代表者の所属機関の研究倫理審査委員会の承認を得て、全国の性暴力被害者 OSC に協力依頼をする。

成果：配布用アンケート最終版が完成し、実施方法や成果物の活用方法が明確になった。アンケート実施のプロセスが、OSC と精神診療機関の関係作りにも役立つという気づきが得られたため、実施方法について再検討することができた。

2. トラウマケアおよび治療専門家を育成する。

［**今年度の到達点①**］： 被害直後から中長期のトラウマ症状のモニターと PTSD 専門ケアおよび治療に関する研修を、健康医療福祉施設に関わるスタッフに対して実施する。

成果：

- PCIT（親子交流療法）基礎研修修了の臨床心理士、公認心理師、精神科医師、が、スーパービジョンのもとセラピーを開始した。
- PE 研修を受けた臨床心理士３名がなごみで心のケアに関する活動に加わった。さらに PCIT・CARE 受講し、セラピー活動を拡大した。
- なごみは専門家に対して性暴力対応の臨床を提供できるという気づきがあった。しかし、精神医療との連携が不十分であることと、なごみには常時使えるセラピーの場所が確保されていないという課題がある。

B. ワンストップセンターを適正数確保し、すべての性暴力被害者を拾い上げる。

［**今年度の到達点①**］：令和２年３月末までに地域内救急救命病院少なくとも３箇所にSANEを配置し性暴力被害者急性期ワンストップ支援センター（以下地域OSC）を開設する。

実施項目①-1：地域内救急救命病院に配置するSANEの育成

成果：第６回目SANE養成研修を実施し、33名が修了した。

＜受講生アンケート結果＞

日本福祉大学　履修証明プログラム
性暴力被害者支援看護職(SANE)養成プログラム　2019

受講生のみなさん、おつかれさまでした
以下のアンケートは、SANE養成プログラムの内容を充実させるためのアンケートです。ご協力をお願いいたします

1、あなた自身のことについて、お聞かせください（該当する項目に○をつけてください）
1)あなたの職種は何ですか？該当する項目に○をつけてください

集計結果

看護師 19
助産師 11
保健師 0
その他 2

2)性暴力被害者の方に関わったことがありますか？該当する項目に○をつけてください(複数回答可)

直接的に関わった 8
間接的に関わった 8
個人的に関わった 1
職場で関わった 20

2、各講義内容について　下記表の右枠の間(①~④)に、該当する番号を下記から選んでお答えください
※5段階評価『5が最上位評価』
【 1=全くそう思わない　2=そう思わない　3=どちらともいえない　4=そう思う　5=とてもそう思う 】

学習内容	①例を示すなどして分かりやすい講義だった	②講義内容はよく練られていた	③質問しやすい雰囲気だった	④興味深い講義だった
①オリエンテーション／フォレンジック看護の概要	4.38	4.53	4.61	4.56
②性暴力救援センター日赤なごやなごみの現状と課題	4.59	4.56	4.45	4.72
③DVと性暴力	4.78	4.75	4.56	4.84
④被害者のケアにおける職業的・倫理的行動	4.16	4.38	4.34	4.34
⑤トラウマを抱えた子ども	4.69	4.66	4.63	4.78
⑥RIFCR(リフカー)研修	4.81	4.81	4.74	4.84
⑦女性への暴力の社会的背景の実態	4.66	4.63	4.56	4.63
⑧SANE性教育の実際	4.63	4.56	4.72	4.59
⑨女性への暴力と医療／性教育の重要性について	4.81	4.91	4.78	4.81
⑩支援が行き届かない性暴力被害者の理解□GLBTIQ)	4.81	4.75	4.63	4.81
⑪検察官から見た性犯罪捜査の問題点	4.72	4.78	4.66	4.75
⑫関連法律の基礎：訴訟、法的補償、秘密、□SANEに必要な法知識	4.66	4.72	4.79	4.76
⑬生活への影響：アドボケイト□SANEとの連携	4.38	4.31	4.52	4.41
⑭受刑者、高齢者、障害者、言語・コミュニケーションの障壁を持つ対象者の心理社会的課題	4.45	4.59	4.72	4.59
⑮男性被害者の理解	4.76	4.79	4.72	4.72
⑯警察の役割と対応	4.16	4.38	4.53	4.47
⑰多職種連携SARTチーム□なごみにおける地域連携	4.69	4.75	4.59	4.72
⑱医学的証拠採取、記録、性犯罪・DV、SANEのフォレンジックアセスメント	4.90	4.90	4.84	4.90
⑲医学的証拠採取、記録、法医学的写真撮影	4.90	4.90	4.84	4.87
⑳協働、社会資源、相談窓口	4.78	4.81	4.75	4.84
㉑性暴力被害者支援で必要とされる性感染症に□関わる基礎知識	4.66	4.69	4.63	4.69
㉒ケアと持続：演習Aグループ　※	4.91	4.91	4.91	4.97
㉒ケアと持続：演習Bグループ　※				
㉓病院拠点型におけるSANE実践	4.77	4.81	4.81	4.87
	4.74	4.74	4.77	4.77

①カリキュラム内容について（アンケート自由記述内容含む）

- 初めて学ぶ内容で講師からの情報提供内容も質の高いものであったとの評価多数
- ロールプレイや演習など体験を伴うプログラムや、実例を豊富に盛り込んだ講義や、当事者による講義への評価が高い傾向
- 講義を再度、振り返ることができるとよい（オンデマンド化への期待）との声が複数あり
- 所属機関の中で孤軍奮闘せねばならない参加者自身の視点にたった（日常の救急外来業務とSANEとをどのように両立するか、病院の中に仕組み構築する手法など）プログラムを求める声もある

②プログラムなどの時間設定について

- 土日開催の是非
- 一日当たりの時間が長すぎる（9：30～19：10：子育て中の参加者には調整困難）
- 研修会場はなるべく同じ場所がよい（大学と病院の2カ所を使った）

＜その他＞

文科省BP（職業実践力養成プログラム）に採択された（更新は3年間）

実施項目①-2：地域内救急救命病院のOSC立ち上げのサポート

成果：米国ネブラスカ大学メディカスセンター救命救急部門の特別講義とシンポジウムを開催した。

＜参加者アンケート結果＞

救命救急における性暴力・DV・虐待対応の重要性とSANEの役割 午前

N=36　看護師 (20)　助産師(15)　保健師(0)　その他(1:医療ソーシャルワーカー)

2) 性暴力被害者に関わったことがありますか？該当する項目に○をつけてください。(複数回答)

直接的に関わった(21)　間接的に関わった(8)　個人的に関わった(1)　職場で関わった(16)

2. 各講義内容について①～④の問いに該当する番号を下記から選んでお答えください。

1=全くそう思わない 2=そう思わない 3=どちらともいえない 4=そう思う 5=とてもそう思う　　全体平均=4.4

日時	講義内容	①例を示すなどして分かりやすい講義だった	②講義内容はよく練られていた	③質問しやすい雰囲気だった	④興味深い講義だった
	救命救急における性暴力・DV・虐待対応の重要性とSANEの役割				
	2-1. 頸絞:アセスメントと創傷の同定	4.2	4.4	4.5	4.5
	2-2. 人身取引:被害の同定と医療従事者の役割	4.3	4.4	4.6	4.6
	2-3. 米国のSANEプログラム	4.2	4.3	4.4	4.4

3. プログラム全体を通じての感想や意見、スケジュール等の要望など、お気づきの点をご自由にお書きください。

D:¥Dropbox¥女性と子どものライフケア¥SANE (1)¥SANE2019¥ネブラスカSANE¥アンケート¥報告20200208ネブラスカ
SANEアンケート 集計(午後のアンケート)20200227

救命救急における性暴力・DV・虐待対応の重要性とSANEの役割　午後

A-1この企画をどうやって知りましたか
①施設内の案内(　11　)
②他セミナーや講演会での案内(　5　)
③知人からの誘い(　4　)
④その他(　10　)

A-2シンポジウムの内容はいかがでしたか　平均　4.4

全く良くなかった		普通		とても良かった
1	2	3	4	5
(　)	(　)	(　)	(　)	(　)

A-2理由ご意見

A-3ネブラスカ大学医療センターの救急部門で実施されている性暴力・DV・虐待の対応についてイメージができましたか　平均　4.3

全くそう思わない		どちらともいえない		とてもそう思う
1	2	3	4	5
(　)	(　)	(　)	(　)	(　)

A-3理由ご意見

A-4日本の救命救急の現場においても性暴力・DV・虐待の対応は重要だと思いましたか　平均　4.8

全くそう思わない		どちらともいえない		とてもそう思う
1	2	3	4	5
(　)	(　)	(　)	(　)	(　)

A-4理由ご意見

A-5日本の救急現場においてもネブラスカ大学のような性暴力・DV・虐待の対応が可能だと思いますか　平均　4.1

全くそう思わない		どちらともいえない		とてもそう思う
1	2	3	4	5
(　)	(　)	(　)	(　)	(　)

A-5理由ご意見

D:¥Dropbox¥女性と子どものライフケア¥SANE (1)¥SANE2019¥ネブラスカSANE¥アンケート¥報告20200208ネブラスカ
SANEアンケート 集計(午後のアンケート)20200227

A-6日本の救命救急の現場における性暴力・DV・虐待の対応にはSANEが必要だと思いましたか　平均　4.7

全くそう思わない		どちらともいえない		とてもそう思う
1	2	3	4	5
(　)	(　)	(　)	(　)	(　)

A-6理由ご意見

B-1性別
①男性　(4)　②女性　(25)　無回答(1)

B-2年齢
①10代　(0)　②20代　(2)　③30代(3)　④40代　(8)
⑤50代　(10)　⑥60代　(5)　⑦70代(2)

B-3お住まいの地域(市町村)

B-4職業

B-4職業	人数
看護師	17
助産師	7
医師	1
大学教員(情報学)	1
地方公務員	1
無回答	3
総計	30

B-3お住まいの人数	
名古屋市	17
一宮市	1
春日井市	1
瀬戸市	1
長久手市	1
豊田市	1
豊明市	1
木曽岬町	1
岐阜県岐阜市	1
岐阜県恵那市	1
無回答	4
総計	30

C-1性暴力・DV・虐待事例(疑われる事例も含む)の対応経験はありますか
①なし　(6)　②あり　(18　無回答　(6)

C-2ご勤務の領域はどこでしたか

救命救急センター	4
小児科病棟	2
なごみ	1
ハートフルセンター病院内	1
開業医(婦人科)	1
外来	1
看護管理室	1
救急外来周産期センター	1
産科	1
産婦人科病棟	1
児童心理治療施設	1
児童心理療育施設	1
助産所	1
小児科外来	1
心理治療施設	1
新生児科	1
民間シェルター	1
無回答	14

C-3対応で難しかったこと、困ったこと、感じたことなど、さしつかえない範囲でお答えをお願いします

＜内容について＞

- 午前中はSANE受講生対象のアドバンスト講義であったが、活発な質疑応答があった。
- 頸絞はDVで頻度の高い暴力の方法であり、日本でもそれは同様である。また、人身取引は一見わからないが、SNSを介して起こっている被害は組織的な犯罪と結びつき、多様な人身取引の想定を示している。しかし参加者の多くが「他国で起こっている問題」ととらえていた。視点が変わった参加者もいるが、「米国っぽい」「なぜ頸絞にしぼったのか」という意見もあった。
- 午後のシンポジウムでは、救急でのSANEの役割が明確に説明され、アンケートでも、参加者の多くが救急の現場での性暴力・DV・虐待の対応は重要であり（平均4.8/5.0）、SANEは救急現場に必要であると（平均4.7/5.0）答えた。
- 被害者の感染症検査の対応について、米国では予防的に必ず実施するが、日本では時期を限定したりHIVが含まれていなかったりする遅れがあることがわかった。
- 緊急避妊ピルに関連して、妊娠予防の内服は日本では72時間であるが、ネブラスカではエビデンスのもと約120時間となっており、常にアップデートを要するという学びがあった。この時間数は米国内でも州により違うため、さらに調べる必要がある。

＜今後についての示唆＞

救急医療では性暴力を含めてあらゆる暴力の対応が必要であるため、SANEの活動を広げ社会の認知をえるためにも、救急医療学会との連携を活動に取り入れることは有効と考えた。次年度の学会への招致を検討し、ネブラスカチームも可能であるとの返答を得ている。しかし、COVID-19によりその計画はすすんでいない。

啓発活動に人身取引を積極的に取り入れる必要がある。

C. 見落とさずに適正な支援・治療につなぐMDTによるデータ連携を実現させる：項目A、BのPE実施環境のデータ収集環境構築，データ分析

1. 組織間データ項目の標準化を行いデータベースの構造を設計する。

[今年度の到達点①]：業務内容やデータの流れを分析し、抽出概念をカテゴリー化しデータ項目を作成する。

成果：

・関係機関間の連携方法について合意形成プロセスの開始に合意
（ただし、3月中の開催予定はCOVID-19の影響により順延中）

・「なごみ」の入力ケースを対象に、データ項目の整理・分析

2. データベースの作成と応用プログラムの開発

[今年度の到達点①]：データベース及びネットワーク構築により、関係者がデータの入力、閲覧、編集、削除ができるようになる。関係者が業務フローに併せて最低限知っておくべき役割や知見を提示する。

成果：

・「なごみ」の入力省力化ならびにデータ蓄積方法の改良を開始（90%）
（4月中に利用開始予定）

[今年度の到達点②]：産業技術総合研究所が開発した虐待対応意思決定支援プラットフォーム”AiCAN”について、本申請内容に合わせた要件の詳細を詰めた上で、実験的に試用できるか検討する。

成果：

・要件詳細の検討を開始（シナリオ創出フェーズ早期の利用開始ではなく、シナリオ創出フェーズ終了時までに利用方法の検討を終了させ、ソリューションフェーズからの活用開始を想定する計画へ変更を予定）

3. 「なごみ」利用者にトラウマケアおよびPTSD治療を実施し、効果を評価する。

[今年度の到達点①]：PE療法、TF-CBTを実施し治療データベース化し，症状尺度で継続してモニターし効果を測定評価する。

成果：

・PE治療の記録を集積するためのWebベース入力システムの設計（50%）

・2019年11月から2020年3月末までの期間、被害者29名に対しトラウマケアとしての心理教育を実施、面接延べ67回、平均2.3回／人

・上記の内、PTSD症状が継続した3名の利用者に対してPEを実施し社会復帰

4. 地域ワンストップ設置病院で受け入れた被害者のデータ収集を「なごみ」のデータに統合し、急性期３ヶ月の対応とPTSD発症について分析する。（B項目より）

[今年度の到達点①]：なし

[参考] 令和２年10月までに、どのようなデータが現場で必要かの議論を終え、AiCANを含むRelational Databaseの設計概要を組めた段階で、実際の運用に耐えられるデータの利活用に関するエコシステムのシナリオを作成する

成果：

・[参考]の通り令和1年度の実施項目が存在しないため、特になし

D.　啓発・教育・広報活動を通じて性暴力を未然に防ぐことができる社会システムづくり

1.　啓発・教育・広報活動により、性暴力が医療的・社会的・政治的・経済的問題であることを伝える。

［今年度の到達点①］：愛知県とその周辺地域にアウトリーチし、幅広い分野で啓発・教育・広報活動を展開する。

成果：法人化したNFHCCの活動として、教育施設、警察、行政など幅広い分野から講演やシンポジウムの依頼があり、現状と予防の大切さ、現状と合わない刑法を改正する必要性を訴えることができた。なごみの社会の認知度が上がり、メディアで取り上げられた。

2.　性暴力撲滅に向けての社会システムづくり活動

［今年度の到達点①］：刑法の改正、政策への提言、効果的な性教育にとりくむ。

成果：性犯罪被害者の心理状態の鑑定をし、有罪判決への貢献ができた。これまでほとんど不起訴になっていた被害ケースについての有罪判決は、心理状態の鑑定で有罪となる判例として記録されるため、今後の裁判に影響を及ぼす可能性がある。

（４）当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

プロジェクト全体の目標に対しては、全体的に遅れがちであるが、SANE研修が実施できたことで、県内のOSC設置可能病院の現状が把握でき、OSC設置に向けての現実的なプランへ反映させることができた。しかし、COVID-19の影響により、対面による研修が中止になったことで、PTSD治療専門家の育成ができなかった。また、MDTチームのデータ連係についても、関連する機関の合意形成を確実にすることを優先し、具体的な既存ケースによるロールプレイの活用をすすめていたが、これもCOVID-19により、プロセスが遅れている。しかし、児童相談所との連携は、WEBによるコミュニケーションにより、今後のデータ共有についての具体的に検討していく合意を得た。

救急医療では性暴力を含めてあらゆる暴力の対応が必要であるため、SANEの活動を広げ社会の認知をえるためにも、救急医療学会との連携を活動に取り入れることは有効と考えた。次年度の学会への招致を検討し、ネブラスカチームも可能であるとの返答を得ている。COVID-19によりその計画はすすんでいないが、WEBによる開催の検討も視野に入れている。

なごみのデータから、18才未満の被害者の85％は、本人以外からの電話連絡により支援が開始されていた。さらに、連絡があったケースのうち本人が来所できたのは1％であった、周囲の大人につながらない限り、自分で支援につながらない18才未満の子どもたちにアウトリーチできるスマホアプリの開発を検討している。

２－３．会議等の活動

。

年月日	名称	場所	概要
定期月1回	プロジェクト（NGM4S：Nagomi for Survivers）会議	名古屋大学またはなごみ	3月以降zoom プロジェクト活動の報告及び検討
2019.10~2020.1	第6回性暴力被害者支援看護職（SANE）養成プログラム	日本福祉大学名古屋第二赤十字病院	8日間〔64時間〕のプログラムであり、看護師/助産師/保健師の資格保持が受講要件。
2019.12.3	名古屋大学HeForShe特別セミナー	名古屋大学	「日本における性暴力被害者救援の現状とトラウマケア」について講演
2019.6,7,8,14,15	ＰＣＩＴ（親子交流療法）５日間イニシャルワークショップ	日本福祉大学東海キャンパス	愛知県内の臨床心理士3名、言語聴覚士1名を含む10名が受講した。
2020.1.15	CARE(大人と子どもの絆を深めるプログラム)	児童保護施設南山寮	南山寮スタッフその他近隣の近隣児童関連医療福祉施設スタッフ30名に実施

３．研究開発成果の活用・展開に向けた状況

○　トラウマ・PTSD治療がどこでもうけられるようにOSCと精神医療機関の連携を強化する

○　日本フォレンジック看護学会と連携して、SANEプログラムの一部WEB化し全国各地でSANEプログラムを実施できるようにする。また、コアカリキュラムの提供とSANE-J認定制度の定着により、SANEの質を確保する。

○　救命救急医療の場にSANEを定着させる。

４．研究開発実施体制

（１）研究者グループ

グループリーダー：長江美代子（日本福祉大学、教授）

役割：研究グループは本プロジェクトの目標達成に向けて、なごみグループによる日々の性暴力救援活動に関わり、データサイエンス支援グループにより作成開発されたデータベースや応用プログラムを実践に乗せ、データ連携を確実に実現できるように、計画を練り、対話を通して評価修正していく。

概要：研究代表者は、毎週「なごみ」でPTSDの予防・治療・回復に関わる側面を担当している。また、なごみに関わるスタッフの研修ついても、研究者グループが企画実施している。研究グループは、技術シーズPEの開発者（Edna B. Foa）、PEの導入者（小西聖子）、心理教育アプリケーション開発者（今野理恵子）、SANEプログラムの導入者であり学会認定を進めている研究者（加納尚美）で構成している。

（２）なごみグループ

グループリーダー：片岡笑美子（一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター、会長）

役割：愛知県との協働により、性暴力被害者支援看護師（SANE)を配置した病院拠点型ワンストップ支援センターを複数開設し、なごみをハブとしてモデル化し、他地域へと展開していく。

概要：主に、拠点病院のスタッフと、医療・司法。行政に関わるなごみ連携組織のメンバーで構成されている。MDTの主要メンバーを含む。

（２）データサイエンス支援グループ

グループリーダー：間瀬健二（名古屋大学、教授）

役割：なごみを中心に構築された地域内のステークホルダーとのネットワークと協働し、データベースや応用プログラムを作成設計する。研究グループとともにOSCの活動データの標準化・蓄積・分析基盤を設計する。

概要：情報学研究科知能システム学専門家、活用予定のAiCANを開発した産業技術総合研究所、データマネジメントを含め、看護系の研究支援の経験が豊富な株式会社マイ.ビジネスサービスで構成されている。

５．研究開発実施者

研究グループ、なごみグループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
長江美代子	ナガエミヨコ	日本福祉大学	看護学研究科	教授
片岡笑美子	カタオカエミコ	一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター		会長
小西聖子	コニシタカコ	武蔵野大学	人間科学部大学院	教授
Edna Foa	エドナ　フォア	University of Pennsylvania	Center for the Treatment and Study of Anxiety	教授
田中敦子	タナカアツコ	日本福祉大学	看護学部看護学科	助教
平松絃子	ヒラマツヒロコ			RA

データサイエンスグループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
間瀬健二	マセ　ケンジ	名古屋大学	大学院情報学研究科	教授
榎堀優	エノキボリユウ	名古屋大学	大学院情報学研究科	助教
高岡昂太	タカオカコウタ	産業技術総合研究所		
林直美	ハヤシナオミ	株式会社マイ.ビジネスサービス		

６．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

６－１．シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2020.2.8	特別講義：救命救急における性暴力・DV・虐待対応の重要性とSANEの役割	なごみNFHCCネブラスカ大学	名古屋第二赤十字病院	32名SANE修了生	①絞頚　：アセスメントと創傷の同定 ②人身取引：被害の同定と医療従事者の役割 ③米国の性暴力被害者支援看護職（SANE)プログラム **Amy Mead,** MBA, BSN, RN, CEN SANE, Nurse Manager
2020.2.8	シンポジウム：救命救急部門とネブラスカ大学のSANEプログラムの概要	なごみNFHCCネブラスカ大学	名古屋第二赤十字病院	一般、病院スタッフ	救命救急における性暴力・DV・虐待対応の重要性とSANEの活動について研修およびシンポジウム。 **Amy Mead,** MBA, BSN, RN, CEN SANE, Nurse Manager **Wesley Zeger**, DO Associate Professor & Executive Vice Chair **Thang Nguyen**, MSN, APRN Faculty Instructor

６－２．社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

（１）書籍、フリーペーパー、DVD

・なごみ５周年記念誌　性暴力救援センター日赤なごやなごみ　2020年5月

（２）ウェブメディアの開設・運営

・一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター（NFHCC）
https://nfhcc.jp/　2020 年 5 月　更新

（３）学会（6-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

・名古屋市委託事業サポートセンターあいち、なごや人権啓発センターソレイユプラザなごや研修室：性暴力被害の理解と対応　大切な子どものからだとこころを守ろう（2019年11月6日）
・名古屋市司法書士会　名古屋司法書士会館：性暴力被害の実態と急性期対応（2019年11月14日）
・豊田市性暴力被害防止セミナー、豊田市保見交流館：身近におきる性暴力　大切なからだとこころを守ろう（2019年11月23日）
・名古屋西保健センター、名古屋西高等学校：思春期セミナー　デートDVと人権　性暴力救援センター日赤なごやなごみの活動を通じて（2019年11月29日）
・日本福祉大学社会福祉学部　日本福祉大学美浜キャンパス：性暴力被害の実態と急

性期対応（2019年12月4日）
・サポートセンターあいち　サポートセンターあいち本部：性暴力被害者に対するなごみでの支援の実際　ーサポートあいちとのよりよい連携を考えるー
・京都産業大学　京都ガーデンパレス：シンポジウム（社会安全・警察学研究所）性暴力被害者のために何が必要か、何ができるか(2020年2月17日）

６－３．論文発表

（１）査読付き（0件）

（２）査読なし（1件）

・長江美代子．性暴力被害者のトラウマ．司法精神医学，15(1)，36-41，2020.
・

６－４．口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）（0件）

６－５．新聞報道・投稿、受賞等

（１）新聞報道・投稿（7件）

・**中日新聞（2019年12月4日）**性暴力被害者ケアの現状　　名古屋大で講演会　支援者ら報告、HeForShe　特別セミナー、「日本における性暴力被害者救援の現状とトラウマケア」

・**日本経済新聞（2019年12月18日）**養父に懲役7年の判決　津地裁監護者性交「常習性も」家庭内性暴力　周りがきづくには

・**中日新聞（2020年2月5日）**性被害　増える相談　16～18年　中部の支援センター

・**朝日新聞（2020年2月18日）**性暴力被害者支援　課題探る　上京でシンポジウム　若年層に積極的にかかわらなければ

・**朝日新聞（2020年2月27日）**　セカンドレイプ断つには　性被害者　周囲の言動で受ける二次被害「絶望し､誰にも話せなくなる」

・**毎日新聞（2020年3月7日）**声をつないで　国際女性デー2020、話してくれてありがとう　早期に適切な処置必要

・**朝日新聞（2020年3月9日）**抵抗できない状態　争点　娘に性的暴行　12日控訴審判決、「抗拒不能」　専門家は「法律、被害者に不利」「男性目線の考え方」

（２）受賞（0件）

（３）その他（2件）

- **NHK　クローズアップ現代プラス放映**「まさか家族が性暴力に　身近に潜む性暴力」（令和元年 11 月 27 日）
- **NHK 名古屋まるっと／おはよう東海**「子どもを被害から守るには」にて活動内容を放映（令和２年１月 15 日／１月 24 日）

６－６．知財出願

（１）国内出願（0件）